

5 心のバリアフリー

(1) 外出先での手助け (問14)

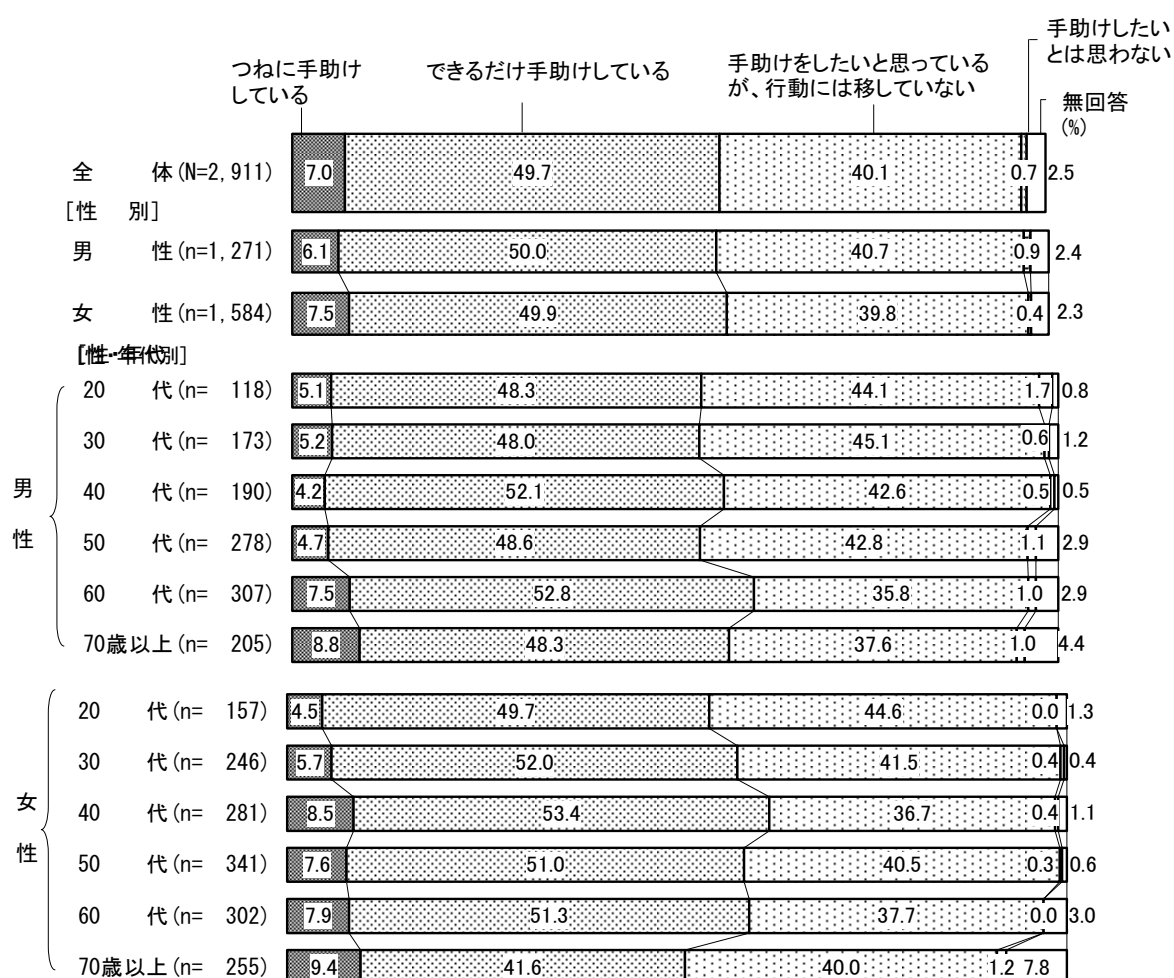
① 全体及び性・年代別の結果

外出の際、「手助けしている」は56.7%（「つねに手助けをしている」7.0%、「できるだけ手助けをしている」49.7%の計、以下同様）で、「手助けしない」40.8%（「手助けをしたいと思っているが、行動には移していない」40.1%、「手助けをしたいとは思わない」0.7%の計、以下同様）を15.9ポイント上回っている（図表Ⅱ-5-1-①全体）。

性別にみると、男女ともに「手助けしている」が多く、女性の「手助けしている」57.4%は男性を1.3ポイント上回っている（図表Ⅱ-5-1-①性別）。

性・年代別にみると「手助けをしている」が最も多いのは女性40代61.9%で、次いで男性60代60.3%、女性60代59.2%と続いている。「手助けしない」が最も多いのは男性30代46.3%で、女性20代45.9%、男性50代45.7%と続いている（図表Ⅱ-5-1-①性・年代別）。

図表Ⅱ-5-1-① 外出先での手助け（全体、性別、性・年代別）



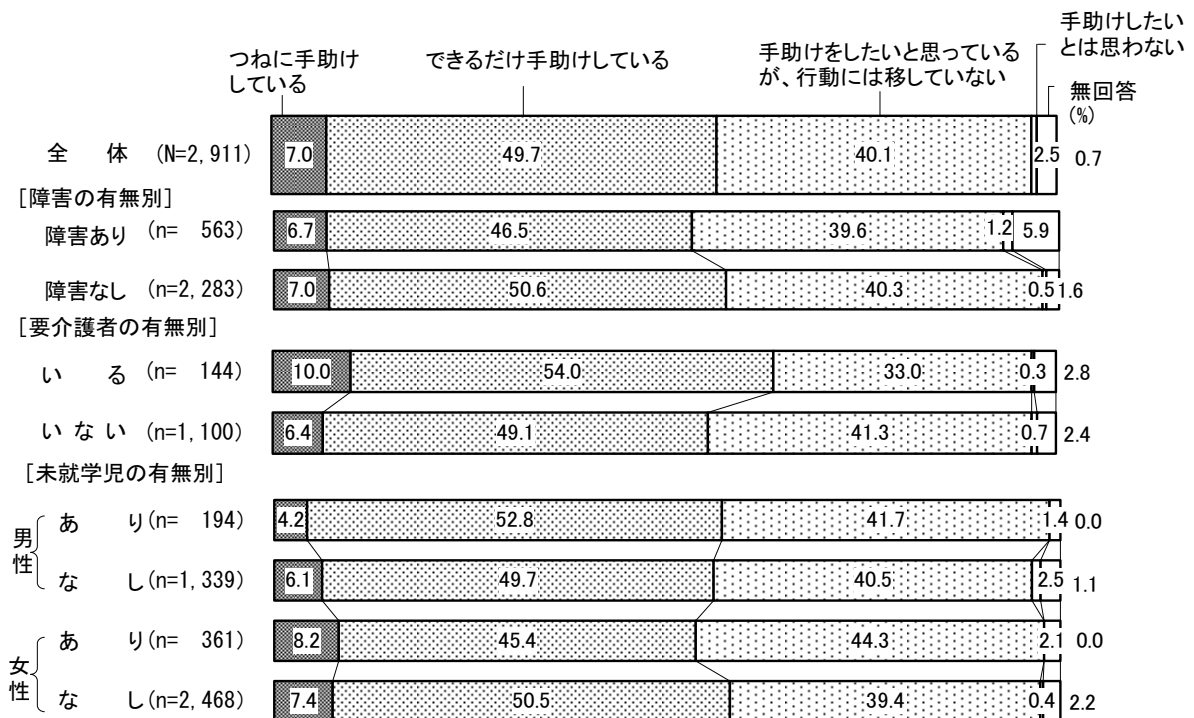
② 障害・要介護者・未就学児の有無別の結果

障害の有無別にみると、「手助けしている」は障害なしが 57.6%で、障害ありの 53.2%を 4.4 ポイント上回っている（図表Ⅱ－５－１－②障害の有無別）。

要介護者の有無別にみると、「手助けしている」はいるが 64.0%で、いないの 55.5%を 8.5 ポイント上回っている（図表Ⅱ－５－１－②要介護者の有無別）。

未就学児の有無別にみると、「手助けしている」は男性の場合子どもありの 57.0%の方が、子どもなしの 55.8%を若干上回っており、女性の場合子どもなしの 57.9%の方が、子どもありを 4.3 ポイント上回っている。

図表Ⅱ－５－１－② 外出先での手助け
（全体、障害の有無別、要介護者の有無別、未就学児の有無別）

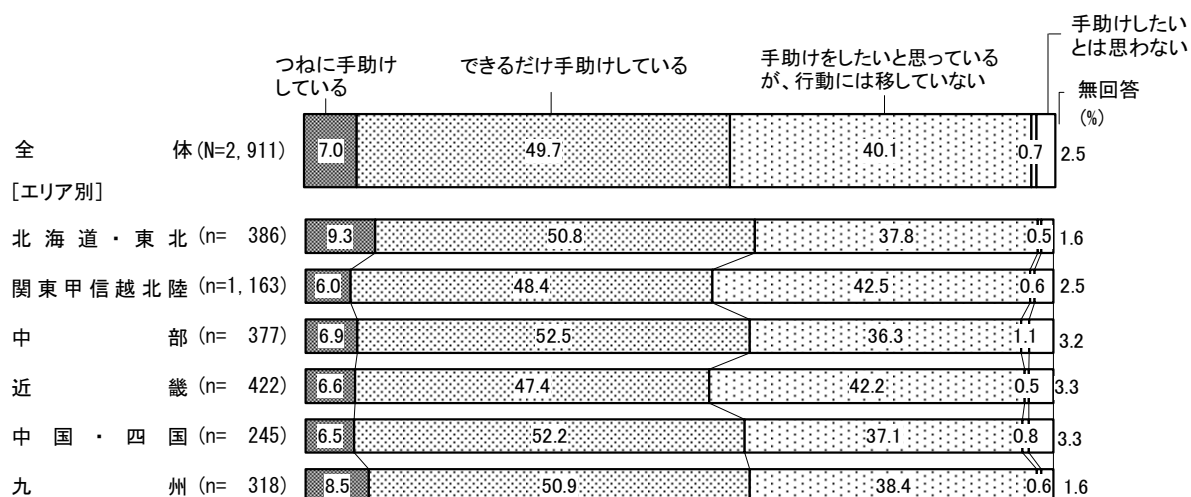


③ エリア別、都市規模別の結果

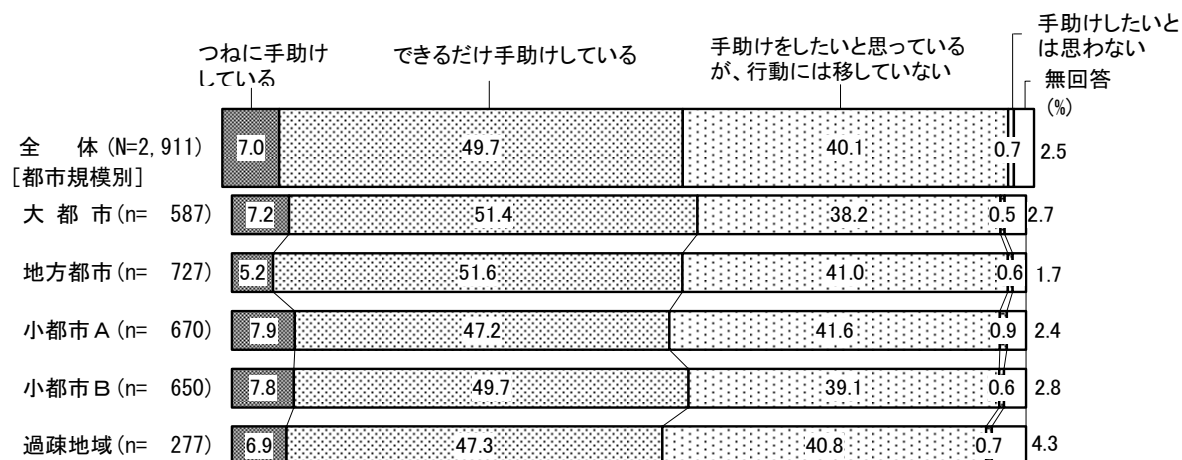
エリア別にみると、「手助けしている」が最も多いのは北海道・東北の60.1%で、次いで中部と九州が59.4%で続いている。「手助けしない」が最も多いのは関東甲信越北陸43.1%で、次いで近畿42.7%、九州39.0%と続いている（図表Ⅱ－5－1－③）。

都市規模別にみると、「手助けしている」が最も多いのは大都市の58.6%で、次いで小都市B57.5%、地方都市56.8%と続いている。「手助けしない」が最も多いのは小都市Aの42.5%で、次いで地方都市41.6%、過疎地域41.5%と続いている（図表Ⅱ－5－1－④）。

図表Ⅱ－5－1－③ 外出先での手助け（全体、エリア別）



図表Ⅱ－5－1－④ 外出先での手助け（全体、都市規模別）



(2) 手助けしない理由 (問15)

ア 全体、性・年代別、障害・要介護者・未就学児の有無別、エリア別、都市規模別

手助けしない理由は、「かえって相手の迷惑になるといやだから」49.3%、「手助けをしたくても対応方法がわからないから」49.0%がほぼ同率で最も多く、次いで「恥ずかしいから」12.6%となっている。(図表Ⅱ-5-2-①)。

手助けしない理由を性別にみると、男性と女性で1、2位の順位が異なり、男性は「かえって相手の迷惑になるといやだから」、女性は「手助けをしたくても対応方法がわからないから」がそれぞれ最も多くなっている(図表Ⅱ-5-2-②性別)。

性・年代別にみると、「かえって相手の迷惑になるといやだから」が最も多いのは、女性50代で、男性40代、男性60代と続いている。「手助けをしたくても対応方法がわからない」が最も多いのは女性30代で、女性40代、男性20代と続いている(図表Ⅱ-5-2-②性・年代別)。

障害の有無別にみると、ありで最も多いのは「かえって相手の迷惑になるといやだから」41.7%で、次いで「手助けをしたくても対応方法がわからない」38.7%であり、3.0ポイントの差となっている(図表Ⅱ-5-2-②障害の有無別)。

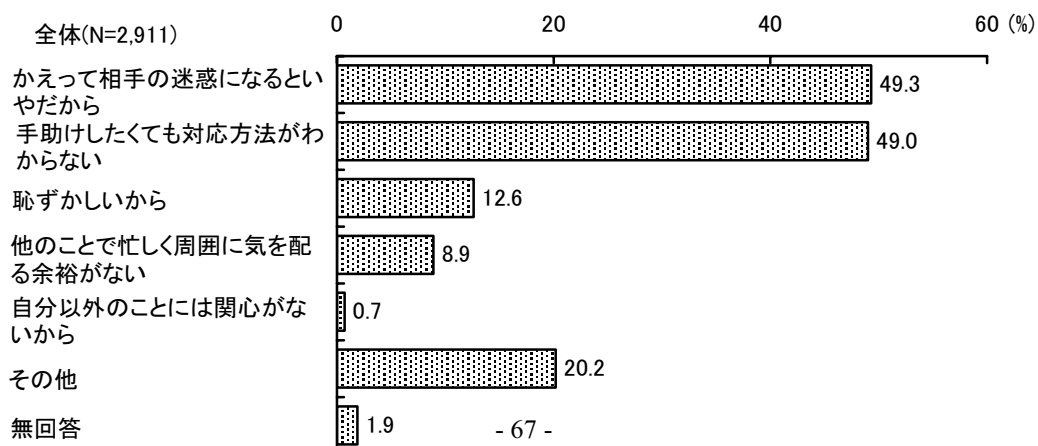
要介護者の有無別には、特に特徴的な点は見られない(図表Ⅱ-5-2-②要介護者の有無別)。

未就学児の有無別には、男性のあり、なし、女性のありは「かえって相手に迷惑になるといやだから」が最も多く、女性のなしは「手助けをしたくても対応方法がわからない」が最も多くなっている(図表Ⅱ-5-2-②未就学児の有無別)。

エリア別には、「かえって相手に迷惑になるといやだから」が最も多いのは北海道・東北、関東甲信越北陸、九州で、他のエリアは「手助けをしたくても対応方法がわからない」が最も多い(図表Ⅱ-5-2-②エリア別)。

都市規模別には、「かえって相手に迷惑になるといやだから」が最も多いのは地方都市、小都市B、過疎地域で、他は「手助けをしたくても対応方法がわからない」が最も多い(図表Ⅱ-5-2-②都市規模別)。

図表Ⅱ-5-2-① 手助けしない理由 (全体)



図表Ⅱ－５－２－② 手助けしない理由

(全体、性別、性・年代別、障害・要介護者・未就学児の有無別、エリア別、都市規模別)

			か え と い て 相 だ か ら 迷 惑 に な	手 方 助 け が わ か ら な い も 対 応	恥 ず か し い か ら	他 の こ と で 忙 し く 周 圍 に	自 が な い か ら こ と に は 関 心	そ の 他	無 回 答
全		体 (n=1,187)	49.3	49.0	12.6	8.9	0.7	20.2	1.9
性別	男	性 (n= 529)	50.9	45.9	15.9	10.0	0.9	16.4	1.1
	女	性 (n= 637)	48.4	51.8	10.2	8.3	0.3	23.4	2.5
性・年代別	男	20 代 (n= 54)	50.0	57.4	11.1	27.8	11.1	1.9	0.0
		30 代 (n= 79)	51.9	39.2	12.7	20.3	10.1	2.5	0.0
		40 代 (n= 82)	54.9	48.8	15.9	23.2	14.6	2.4	1.2
		50 代 (n= 122)	48.4	51.6	11.5	17.2	10.7	0.0	0.0
		60 代 (n= 113)	54.0	42.5	21.2	8.8	8.0	0.0	0.9
		70 歳以上 (n= 79)	45.6	38.0	25.3	3.8	6.3	0.0	5.1
	女	20 代 (n= 70)	48.6	57.1	18.6	20.0	10.0	0.0	1.4
		30 代 (n= 103)	47.6	63.1	26.2	11.7	9.7	1.0	0.0
		40 代 (n= 104)	49.0	57.7	21.2	14.4	4.8	0.0	2.9
		50 代 (n= 139)	55.4	49.6	19.4	10.8	8.6	0.0	2.2
		60 代 (n= 114)	48.2	47.4	21.9	6.1	8.8	0.9	6.1
		70 歳以上 (n= 105)	40.0	39.0	32.4	1.9	8.6	0.0	1.9
障害の有無別	障害あり (n= 230)		41.7	38.7	32.2	3.0	6.1	2.2	4.3
	障害なし (n= 932)		51.3	51.2	17.5	15.0	9.7	0.3	1.4
要介護の有無別	いる (n= 120)		44.2	43.3	10.8	10.8	0.8	25.0	2.5
	いない (n=1,038)		49.7	49.8	13.0	8.8	0.7	19.7	1.9
未就学児の有無別	男性	あり (n= 60)	55.0	41.7	16.7	6.7	1.7	15.0	1.7
		なし (n= 458)	50.7	47.2	15.9	10.0	0.9	16.6	1.1
	女性	あり (n= 86)	53.5	50.0	9.3	14.0	1.2	26.7	1.2
		なし (n= 534)	47.2	51.7	10.3	7.7	0.2	23.0	2.8
エリア別	北海道・東北 (n= 148)		51.4	42.6	24.3	11.5	9.5	0.7	1.4
	関東甲信越北陸 (n= 501)		50.9	49.7	20.8	12.8	9.2	0.4	2.0
	中部 (n= 141)		44.0	48.2	17.0	10.6	9.9	1.4	3.5
	近畿 (n= 180)		46.1	52.2	21.1	10.0	7.2	1.7	2.2
	中国・四国 (n= 93)		47.3	51.6	16.1	17.2	6.5	0.0	1.1
	九州 (n= 124)		52.4	48.4	18.5	16.1	10.5	0.0	0.8
都市規模別	大都市 (n= 227)		42.3	47.1	20.7	12.3	10.6	1.8	1.8
	地方都市 (n= 302)		53.3	49.7	18.9	11.6	7.9	0.0	3.0
	小都市 A (n= 285)		49.5	52.3	21.1	14.7	7.4	0.7	1.4
	小都市 B (n= 258)		52.3	50.0	19.0	12.0	10.5	0.4	1.6
	過疎地域 (n= 115)		45.2	40.9	23.5	12.2	8.7	0.9	1.7

イ その他の内容 (202 件)

その他の内容としては、

「そういう場面に出会っていない。」(男性、60代後半、中部)

「困っている場面にあまり遭遇したことがない。」(女性、20代後半、九州)

「車で外出する事が多く、そのような状況に出会うことはありません。手助けはしたいと思っています。」(女性、50代後半、近畿)

といった手助けを必要とする機会がないという理由が大半を占めている。

次いで、

「年齢的に無理」(女性、75歳以上、中国・四国)や

「自分も障害があるから。」(女性、70代前半、関東甲信越北陸)

といった自身の理由で手助けできないものが目立つ。

そのほかとしては、

「本当に困っているのかどうか判断できないから。」(男性、40代前半、関東甲信越北陸)

「手伝った方が良いのか悪いのか不明。」(男性、40代後半、関東甲信越北陸)といった相手が手助けを必要としているかどうかわからないことを理由とするものや、

「一度断られたことがあったから。」(女性、60代前半、近畿)

「以前は声を掛けたが、目の悪い方など拒否する方もいるので難しい。」(女性、50代後半、近畿)という手助けを拒否された経験から今は行っていないものや

「対応の仕方によるケガ等発生した時責められる懸念がある為。」(男性、60代前半、九州)

「どれぐらい時間を要するか読めないから。」(男性、40代後半、関東甲信越北陸)

「他人に声をかけることが苦手であるから。」(男性、20代前半、中国・四国)といった理由が寄せられている。

(3) 心のバリアフリーの実践 (問16)

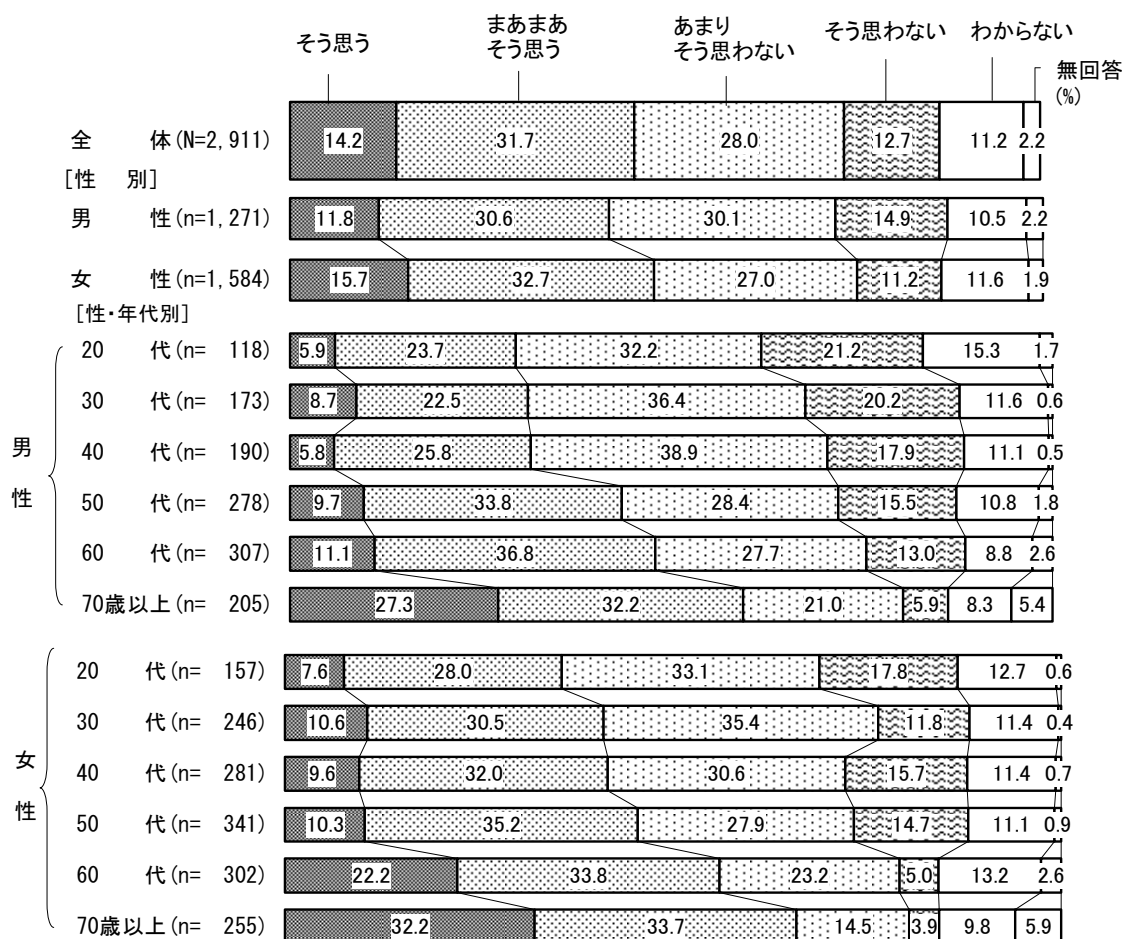
① 全体及び性・年代別の結果

「心のバリアフリー」を実践していると思うかについては、「そう思う」が45.9%（「そう思う」14.2%、「まあまあそう思う」31.7%の計、以下同様）、「そう思わない」が40.7%（「あまりそう思わない」28.0%、「そう思わない」12.7%の計、以下同様）となっている（図表Ⅱ-5-3-①全体）。

性別に見ると、男女で反対の結果が出ている。男性は「そう思わない」が多く45.0%で、「そう思う」42.4%を2.6ポイント上回っており、女性は「そう思う」が多く48.4%で、「そう思わない」38.2%を10.2ポイント上回っている（図表Ⅱ-5-3-①性別）。

性・年代別にみると、若い層は「そう思わない」が多く、年齢が上がるにつれて「そう思う」が増えることがはっきりと現れている。男性の「そう思う」は20代が最も少なく29.6%、70歳以上が最も多く59.5%、「そう思わない」は40代が最も多く56.8%、70歳以上が最も少なく26.9%である。女性の「そう思う」は20代が最も少なく35.6%、70歳以上が最も多く65.9%、「そう思わない」は20代が最も多く50.9%、70歳以上が最も少なく18.4%である（図表Ⅱ-5-3-①性・年代別）。

図表Ⅱ-5-3-① 心のバリアフリーの実践（全体、性別、性・年代別）



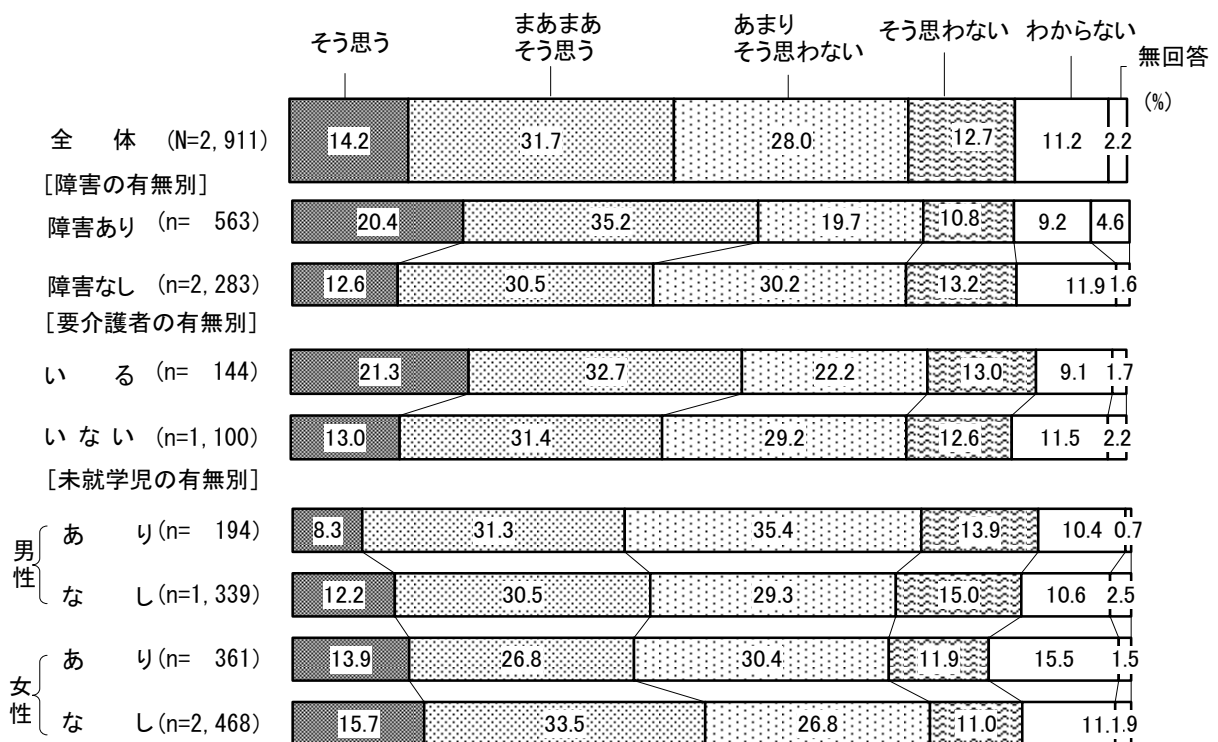
② 障害、要介護者、未就学児の有無別の結果

障害の有無別にみると、障害ありの場合「そう思う」55.6%が、「そう思わない」30.5%を大きく上回っているのに対し、障害なしの場合はほぼ同率で約43%となっている（図表Ⅱ-5-3-②障害の有無別）。

要介護者の有無別にみると、いるの「そう思う」は54.0%で、いないの44.4%を9.6ポイント上回っている（図表Ⅱ-5-3-②要介護者の有無別）。

性・未就学児の有無別にみると、女性・なしだけ「そう思う」が「そう思わない」を上回っており、それぞれ49.2%、37.8%となっている。「そう思わない」の比率が最も多いのは男性・ありで、「そう思わない」49.3%が「そう思う」39.6%を9.7ポイント上回っている（図表Ⅱ-5-3-②未就学児の有無別）。

図表Ⅱ-5-3-② 心のバリアフリーの実践
（全体、障害・要介護者・未就学児の有無別）

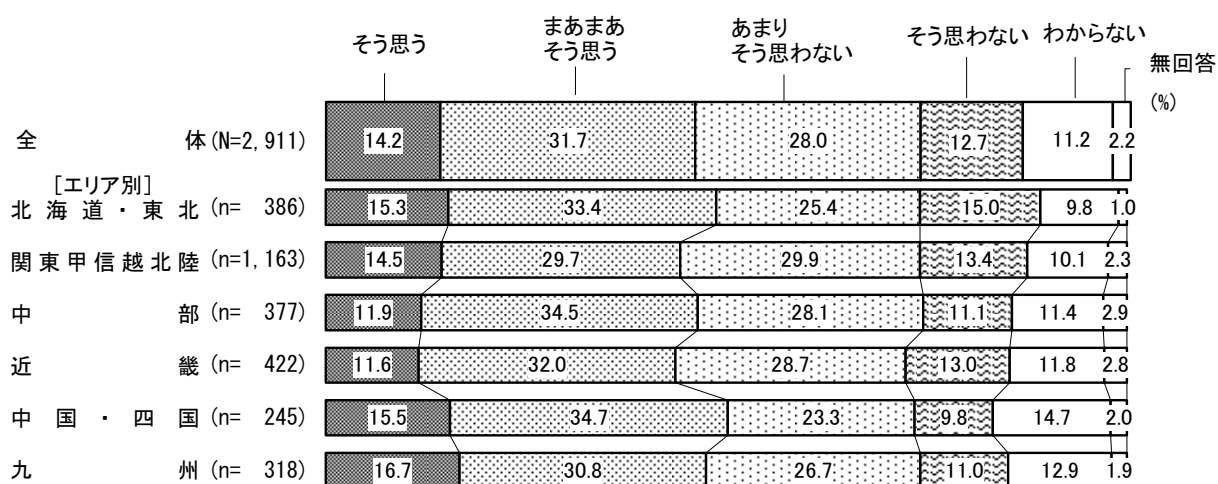


③ エリア別、都市規模別の結果

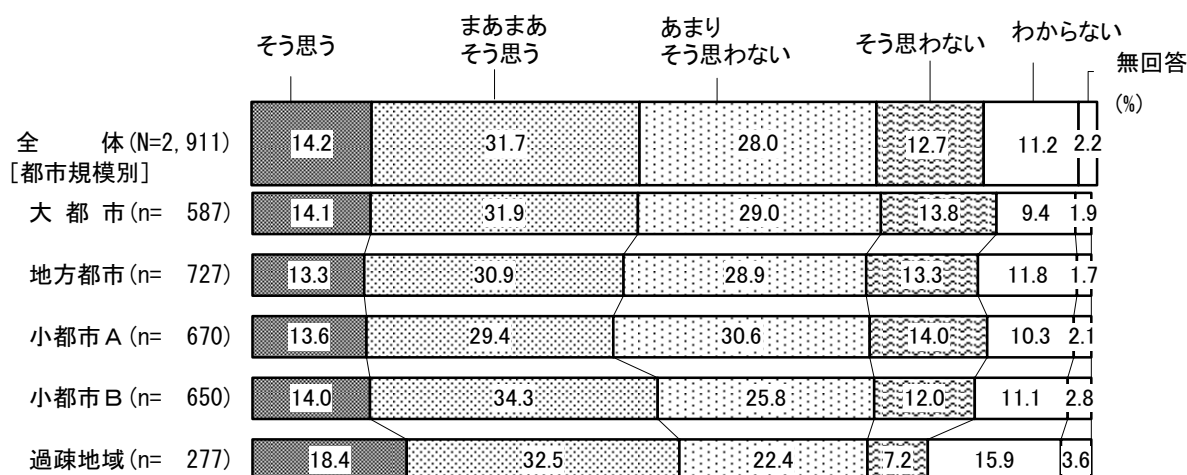
エリア別にみると、「そう思う」が最も多いのは中国・四国 50.2%で、最も少ないのは近畿の 42.6%である。また、「そう思わない」が最も多いのは関東甲信越北陸で 43.3%、最も少ないのは中国・四国の 33.1%である（図表Ⅱ－５－３－③）。

都市規模別にみると、「そう思う」が最も多いのは過疎地域 50.9%で、最も少ないのは小都市Aの 43.0%である。また、「そう思わない」が最も多いのは小都市Aで 44.6%、最も少ないのは過疎地域の 29.6%である（図表Ⅱ－５－３－④）。

図表Ⅱ－５－３－③ 心のバリアフリーの実践（全体、エリア別）



図表Ⅱ－５－３－④ 心のバリアフリーの進展（全体、都市規模別）



(4) 心のバリアフリーを実現するために必要なこと (問17)

「心のバリアフリー」を実現していくために必要なこととしては、「学校で学ぶ機会を増やすこと」が68.1%で最も多く、2位の「さまざまな人が交流する機会が増えること」48.6%を19.5ポイント上回っている。続いて「サポートの具体的な情報を提供する」46.3%、「理解と関心が高まるような広報・啓発」42.7%、「手助けするボランティア等を養成する」33.3%となっている。(図表Ⅱ-5-4-①)。

性別にみると、男性は3位に「広報・啓発活動を行うこと」が入っている(図表Ⅱ-5-4-②性別)。

性・年代別にみると、男女とも若い層で「学校で学ぶ機会を増やすこと」及び「さまざまな人が交流する機会が増えること」が多いこと、女性の50～60代以下の層で「さまざまな人が交流する機会が増えること」及び「サポートの具体的な情報を提供する」が多いことが特徴的である(図表Ⅱ-5-4-②性・年代別)。

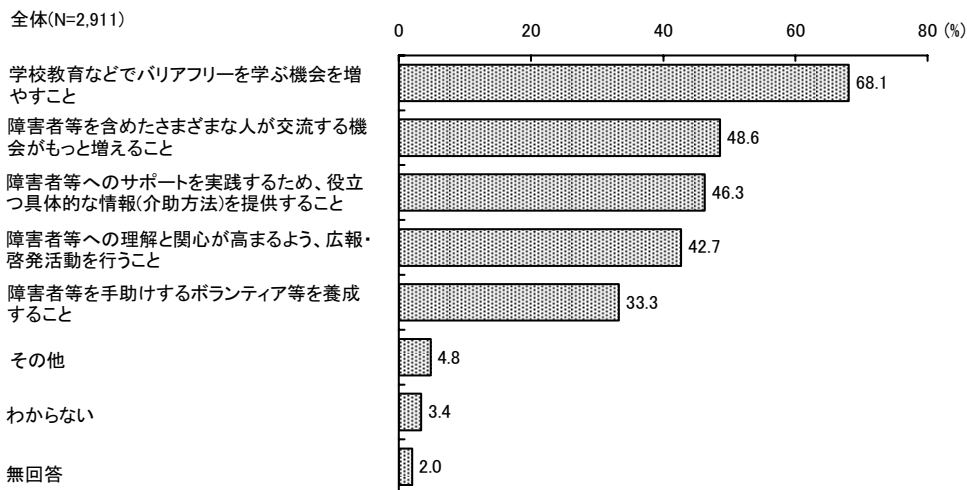
障害の有無別にみると、障害ありの場合、2位は「手助けするボランティア等の育成」で、以下「サポートの具体的な情報を提供する」「理解と関心が高まるような広報・啓発」「さまざまな人が交流する機会が増えること」と続き、2位以下の順位が全体とかなり異なることが特徴的である(図表Ⅱ-5-4-②障害の有無別)。

要介護者の有無別にみると、いる場合に2位以下の順位が異なっており、2位が「理解と関心が高まるような広報・啓発」で、次いで「サポートの具体的な情報を提供する」「さまざまな人が交流する機会が増えること」と続いている(図表Ⅱ-5-4-②要介護者の有無別)。

性・未就学児の有無別にみると、男女ともありの場合に「学校で学ぶ機会を増やすこと」が多いことが特徴的である(図表Ⅱ-5-4-②未就学児の有無別)。

エリア別、都市規模別にみても、概ね全体の傾向と変わらない(図表Ⅱ-5-4-②エリア別、都市規模別)

図表Ⅱ-5-4-① 心のバリアフリーを実現するために必要なこと (全体)



図表Ⅱ-5-4-② 心のバリアフリーを実現するために必要なこと

(全体、性別、性・年代別、障害の有無別、要介護者の有無別、未就学児の有無別、エリア別、都市規模別)

			学校で学ぶ機会を増やす	様々な人が交流する機会が増えること	サポートの具体的な情報を提供する	広報・啓発と関心が高まるような	手を助けるボランティア等	その他	わからない	無回答	
全		体 (N=2,911)	68.1	48.6	46.3	42.7	33.3	4.8	3.4	2.0	
性別	男	性 (n=1,271)	68.3	46.3	43.1	44.8	34.7	3.9	2.7	1.3	
	女	性 (n=1,584)	69.1	51.1	49.4	41.6	32.5	5.6	3.8	1.6	
性・年代別	男	20代 (n= 118)	73.7	55.1	40.7	39.8	25.4	5.1	2.5	0.8	
		30代 (n= 173)	71.7	48.6	43.9	38.7	22.5	6.4	1.7	0.6	
		40代 (n= 190)	69.5	50.5	38.4	42.1	31.6	5.3	4.7	0.5	
		50代 (n= 307)	65.5	43.2	42.1	45.0	38.1	4.0	1.8	0.7	
		60代 (n= 205)	69.7	44.3	46.3	45.0	36.5	2.3	2.9	2.0	
		70歳以上 (n= 557)	62.9	42.9	44.9	54.6	45.9	2.4	2.4	2.4	
	女	20代 (n= 157)	75.2	56.7	51.6	41.4	20.4	8.3	1.9	0.6	
		30代 (n= 246)	75.2	52.8	55.7	36.6	23.2	9.3	1.6	0.0	
		40代 (n= 281)	74.7	54.8	50.2	41.3	28.8	7.5	2.1	1.1	
		50代 (n= 341)	69.2	50.1	53.4	41.9	35.5	5.3	4.1	1.2	
		60代 (n= 302)	63.9	53.3	45.4	45.0	41.1	2.6	4.6	2.3	
		70歳以上 (n= 225)	59.2	40.4	40.8	42.4	39.2	2.4	7.5	4.3	
	障害の有無別	障害あり (n= 563)		61.6	41.9	44.2	43.9	43.0	4.6	5.2	2.7
		障害なし (n=2,283)		69.7	50.5	46.9	42.6	31.0	5.0	2.9	1.7
要介護の有無別	いる (n= 144)		66.8	47.9	49.0	50.4	39.3	6.1	4.2	0.8	
	いない (n=1,100)		68.4	48.9	45.9	41.6	32.3	4.7	3.2	2.1	
未就学児の有無別	男性	あり (n= 194)	73.6	51.4	37.5	45.8	30.6	4.9	5.6	0.7	
		なし (n=1,339)	67.8	45.8	44.0	44.6	35.2	3.9	2.3	1.4	
	女性	あり (n= 361)	74.7	54.6	43.8	39.7	24.2	8.8	4.1	1.0	
		なし (n=2,468)	68.2	50.8	50.1	41.7	33.5	5.4	3.7	1.7	
エリア別	北海道・東北 (n= 386)		69.9	51.8	46.1	41.5	39.6	4.7	2.8	2.3	
	関東甲信越北陸 (n=1,163)		70.6	47.0	47.5	43.9	31.0	4.9	2.7	1.9	
	中部 (n= 377)		64.7	47.5	45.4	45.1	36.3	4.5	4.0	3.2	
	近畿 (n= 422)		64.5	48.6	43.1	38.2	33.2	4.5	4.5	1.4	
	中国・四国 (n= 245)		67.3	50.2	48.6	44.9	34.7	4.5	4.5	1.2	
	九州 (n= 318)		66.4	50.6	45.3	41.5	29.2	6.0	3.5	1.9	
都市規模別	大都市 (n= 587)		68.0	46.2	46.8	41.7	32.0	6.1	3.7	1.5	
	地方都市 (n= 727)		71.1	47.5	46.5	45.1	32.5	4.8	3.6	1.8	
	小都市 A (n= 670)		70.3	50.3	48.4	44.0	32.8	4.5	1.9	1.6	
	小都市 B (n= 650)		65.8	51.1	43.8	41.4	32.3	4.3	3.8	2.2	
	過疎地域 (n= 277)		60.6	46.9	45.1	38.3	41.2	4.3	4.3	4.0	